

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 26 日現在

機関番号：62608

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520264

研究課題名(和文) 明治期における近世戯作の享受に関する研究

研究課題名(英文) The study that a novel of the Edo era was received with the style of what kind of book in the Meiji era

研究代表者

山本 和明 (YAMAMOTO, Kazuaki)

国文学研究資料館・古典籍データベース研究事業センター・教授

研究者番号：90249433

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：木版で印刷された江戸時代の小説が、明治時代になって、活版印刷が登場した結果、どの作品が、引き続き読まれることになったのか、印刷技術の革新のなかで生き残り読まれた作品をできるだけ可能な限り資料的に確認しようと試みた。明治期の刊行データを読売新聞などの新聞から集積し、実際に、国会図書館等の文庫や図書館で明治期刊行物を調査した。その結果、木版から活版への過渡期における様々な書物の形式についての試みや、江戸期の木版印刷物がどのような運命を辿ったか等の発見があった。

研究成果の概要(英文)：The novel of the Edo era is printed with xylograph. In Japan, type printing came up in the Meiji era. In a novel published in the Edo era, which work was published by printing in the Meiji era? Which work was able to get many readers in the Meiji era? I confirmed publication data from a published newspaper of the Meiji era. For example, the newspaper is the Yomiuri Shimbun, Tokyo Niti-Niti Shimbun, IROHA Shimbun. In addition, I really went to National Diet Library and other libraries and confirmed the work. As a result, I was able to confirm it about the form of various books in the transition period. In addition, it was destined that the book by the xylograph was discarded in the Meiji era, and, however, writers of the Meiji found value in a book with the xylograph in a secondhand bookstore. I was able to confirm such an episode.

研究分野：近世・近代文学

科研費の分科・細目：文学、日本文学

キーワード：国文学 近世戯作 ポール表紙 活版 近世戯作翻刻本

### 1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初の背景として次の点が挙げられる。

(1) 作品享受に的を絞った研究が研究の本流とは必ずしもみられていないこと：日本文学研究においては、どうしても作品の成立した時点での社会風土、環境、政治形態などに照らし合わせ、作品世界を考察することが主となっている。しかるに、そうした作品が後の世においていかに享受されていったかは、近年まで等閑にされてきた。古典文学関連では野口武彦『源氏物語を江戸から読む』など存するが、近代文学と古典作品との関係の場合、どうしても作品への一部引用とか、典拠云々ということでの指摘に留まる。それが近世戯作との繋がりとなれば、泉鏡花などの一部の作品に研究が集中しているのが現状でしかない(須田千里氏などの一連の研究)。近世戯作と近代小説との結びつきは甚だ濃いにもかかわらず、前田愛「明治初期戯作出版の動向」(『近代読者の成立』、初出1963年)を継承する研究は、高木元、山田俊治など一部の研究者を除き、必ずしも盛んとはなっていなかった。

(2) 近代文学研究者の多くが、自身の研究対象の表現様式たる活版印刷本とは異なる、近世戯作のような木版印刷本の存在を、くずし字を読まねばならないことで、読むこと事態を回避してきたこと：和本リテラシーという言葉が近年脚光を浴びるが、くずし字で記された本などに注目しようにも、そのリテラシーを高めることに時間を割くことはなかなか容易ではない。しかし実をいえば、明治の書生たちといえども、坪内逍遙など一部を除き、誰もが木版印刷されたくずし字を読みこなしてはいない。夏目漱石が読んだ八犬伝は、明治に至って挿絵や口絵を相応省いた「国民の本筐」シリーズの活版本であった。そうした事実を前にするとき、明治二〇年代になお、近世戯作が多く活版印刷にふされていることを、近世や近代文学の研究者は等閑に附したままでよいのか。

以上の観点で本研究を着想した。

### 2. 研究の目的

本研究は、明治期において、近世戯作がいかに享受されていたかについて研究するものである。目的としては次の2点に総括することができる。

(1) 近世戯作のうち、なにが選ばれ活版化されているのか、明治期における近世戯作享受の様相を明らかにする。そのことは、とりもなおさず明治二〇年代以降の近代小説を考える上での必要な階梯である。

従来看過されてきた近世戯作の活版印刷本の総合的なデータ集積によって、活版フォーマットへの変更の潮流のなかで、近世戯作

の何が淘汰され、何が選び取られ、明治の時代に読者に提供されていったのかが具体的に明らかとなる。具体的には、近世戯作の明治期活版本に焦点を絞り、その出版物を悉皆調査することをめざし、重版の度合い(流布の度合い)や抄録傾向等々の検討を加え、近世近代世文学史・文化史への新たな視座獲得のための基盤形成・データ整備を目論む。この基礎的研究を踏まえることが、近世と近代を繋ぐ考察を進める一歩になると考える。

(2) 明治期の人々がどういった観点で近世戯作に手を伸ばし、読みふけたのかについて考える。例えば「小説稗史の類の蔵書家殖ふたるは殊に驚く可し。皆な世に求むる人多くなりて(略)即ち一万人の八犬伝の蔵書家を世に増したるなり」と宣言するのは明治十七年段階のこと(「読売新聞」明治17年10月12日)で、以後、近世戯作のブームが招来した。そういった要因を探る。(2)の問題を解明するためにも、(1)の近世戯作翻刻本の調査(版の重ね具合・類版の多さを含めての調査)が不可欠である。

### 3. 研究の方法

従来の研究成果を総合的に掌握したうえで、「近世戯作の明治期活版本データベース」(書誌データおよび書影画像を併せたDBとして構築、将来のWEB公開に備える)の作成準備を中心的課題とし、木版本として流通した近世期の戯作類が、明治期に、活版本へとそのフォーマットを変更するにあたり、どのような形態的、内容的変更を余儀なくされ、どのような作品が享受されていったかを具体的に明らかにしてゆく。そのための基礎的研究を執り行う。そのための方法として、具体的には次の方策をおこなった。

(1) 当時の新聞・雑誌の紙面、出版書目月報等の資料より可能な限り近世戯作(ならびに古典)の明治期刊行に関するデータを集積し、データ化する。そのデータ化に際し、国文学研究資料館作成の近代文献書誌カード(簡易カード)に準拠した形でのデータ作成を行う。この形式では画像をデータに取り込める点に利点がある。その際、翻刻作業した広告データだけではなく、その広告画像データを併せることで、データの信憑性を確保していく。

(2) 大学図書館を含む公共図書館(酒田市立光丘図書館、都立中央図書館、国文学研究資料館、住吉大社御文庫等)で閲覧調査を行い、許可の得られた文庫では、可能な限り書影撮影を実施していく〔時間の短縮を図るため、ある程度、本の決められた箇所、即ち本文冒頭・巻末・口絵・挿絵などでの定点観測を行う〕。これもまた、近代文献書誌カードに準拠した形で執り行う。こうした書冊については個人蔵のことも多い。公共図書館を中

心に調査するのは、今後このデータを公開した際に、後学がその閲覧にスムーズに対応できることを考えてのことである。個人蔵の資料も、画像撮影することで、再版本での表紙や奥付の違い等も確認していくことを容易なものとなるし、その書誌的な事項の証拠となる。

以上の、方法により基礎的なデータ構築を進めて行く。基礎的なデータとなるため、そのままの形での公開には至らぬが、その収集の中で、気づいた点などを中心に研究論文として公開する予定である。

#### 4. 研究成果

成果として、以下の事柄を挙げることができる。

(1) 明治期の新聞・雑誌の紙面、出版書目月報等の資料により、明治30年代までの可能な限りの近世戯作(ならびに古典)の明治期刊行に関するデータを集積し得た。また既存の目録類、古典籍商の目録から今日現存する資料の所蔵先等の確認もあわせておこなった。収集した基礎データには、画像撮影許可のおりなかった所などもあり、1点ごとにその記述の長短があるため、公開にむけての整理を進めたい。この調査結果は、今後単著刊行時に資料として掲載し、今後の研究に資するものとする。そのデータより、現段階で明らかとなった点を略記する。今後、論文等の形で詳細を呈示する予定であるものもあるため、詳細に亘らぬ点はお許しいただきたい。

明治期活版翻刻本における紙型の流用状況が具体的に確認できた。紙型の場合釘跡が存するため、その位置などから共通の紙型であることが確認できる。同様の観点から、一見同じ書名で同じ版元であってもそのつど活字を組んでいるものも確認できた。このことから分かることは、版元が当初から売れる本と見込んでの出版物であったか、それとも予想外に売れたため、改めて活字を組んでいるかといった状況である。

無著作権による大量出版状況と、そのなかでの元版の存在の特定ができた。例えば、活版印刷されたA本をそっくりそのまま利用し、活版を組んで印刷した結果、奥付までも同じ形で印刷されたB本などがあり、広告文面からその出版時期などもある程度絞り込むことが可能となった。特に東京での出版と大阪での出版という地域の相違は、こうした海賊版のような書冊のありようとして指摘しうるものがあった。

和綴活版本からボール表紙本への過渡期において、和綴表紙をそのままボール表紙の表に貼り付けるなどした過渡期本の特徴が確認できた。ボール表紙本、銅版本等様々な形をとって出版されている書冊であっても、本文・口絵・挿絵という観点から眺めたならば、特に口絵・挿絵に関する転用の多さとと

もに被せばりによる再作成なども見受けられる。書誌的事項の記述としてはAという画師による口絵と同一の記述であっても実はB本における口絵挿絵の流用(被せばり)に過ぎないということもある。こうした事例について、今回の研究において実際に書冊にあたって実見した結果、明らかになった。

大川屋や兎屋等の廉価販売中心の書肆の動向について確認出来た。特に廉価販売の本屋同士で、競争的な状況がおこっていたこと、地方に於ける出張販売の具体的な資料を確認出来た。書冊の販売圏論とでも称し得るような時期のズレなど具体的に確認できたのは収穫であった。

明治三十年代を中心とした叢書化の元版との位置付けについて具体的に検証できた。博文館の帝国文庫収載書目がその多くで他のボール表紙本本文を利用していることなどが明らかとなった。

新聞紙面上における戯作本類の活況状況について、今回の調査データならびに諸本調査による何版まで存するか確認によりある程度確認することができた。

未刊行の近世戯作翻刻本状況(どういった書冊が翻刻されようとしていたか)についても広告文を確認していくことにより、当初A本の広告文に存在したものが後に同出版社から刊行されたB本に於いては消えているなどの比較調査によりある程度確認することができた。

近代小説の出版社と近世戯作の関わりについて、近世戯作翻刻本の刊行する書肆として登場した本屋が、徐々に新本のウエイトを増やして、近代小説の出版社として変貌していくことなどが確認できた。

紙面等の調査の過程の中で、明治期における近世戯作に対する評の集積ができた。様々な誌面に於いて、近世戯作を巡って、明治という時代に関わらず、前代の書籍が大量に刊行されている状況について危惧を表明しているなど、当代の読者意識をうかがい得るものであった。

和本から活版本への変化における紙面構成の特徴について確認できた。特に口絵・挿絵等、木版を利用した箇所については徐々に削除する傾向にあること、つまり視るものから読む物への変化が確認できた。

(2) 書物に具体的にあっていったことにより、(1) にあげた事柄のなかで、序文の書体(活版ではない点に特徴)を巡って、近世から近代にかけての特徴を、ある程度展望できたため、論文として公表した(近世的表現としての「序」・覚え書き、図説江戸の「表現」所載)。また、(1) に関しても、論文として公表した(稀書玩味の交遊圏(一)・鹿田松雲堂というサロン(稿) 稀書玩味の交遊圏(二))〔以上、「主な発表論文」に掲載〕。

その成果論文に対してだが、既にリポジトリ化された論文に対し、海外の研究者からの

問い合わせもあるなど一定の評価を得ている。今後は、資料整備とともに、上記に記した内容を論文として公表していく所存である。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2件)

山本和明、鹿田松雲堂というサロン(稿)  
稀書玩味の交遊圏(二)、相愛大学研究  
論集、査読有、29巻、2013、pp.109-122、  
[https://soai.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=1439&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=17](https://soai.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1439&item_no=1&page_id=13&block_id=17)

<http://id.nii.ac.jp/1074/00001291/>

山本和明、稀書玩味の交遊圏(一)、相愛  
大学研究論集、査読無、28巻、2012、pp.  
344-324、

[https://soai.repo.nii.ac.jp/?action=pages\\_view\\_main&active\\_action=repository\\_view\\_main\\_item\\_detail&item\\_id=1468&item\\_no=1&page\\_id=13&block\\_id=17](https://soai.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=1468&item_no=1&page_id=13&block_id=17)

<http://id.nii.ac.jp/1074/00001316/>

〔図書〕(計 1件)

山本和明 他、八木書店、図説江戸の「表現」  
浮世絵・文学・芸能、2014、339(258~270)

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

山本 和明(YAMAMOTO, Kazuaki)

国文学研究資料館・古典籍データベース研究  
事業センター・教授

研究者番号：90249433